

2020年(令和2年)7月1日水曜日

日刊工業新聞 経済透視図

介護業界テクノロジー活用

～事務作業 IT で効率化～

高齢化社会の進行で、介護サービス対象者の増加が見込まれている。要介護認定者数は2015年の450万人が25年には604万人と急激に増加するとされている。需要が増加する一方、介護サービス単価は報酬改定により切り下がる傾向にある。介護制度を継続していくには、テクノロジーの活用によるイノベーションは不可欠な要素である。

介護に関するテクノロジーでは、文書作成などの介護事務に関する領域のITによる効率化など、介護事務領域におけるテクノロジーの活用がある。

介護業界では、依然として紙文化が根付いている。職員による手書き文書作成、FAXでのやりとりが日常的に行われている。IT化を阻害してきた要因として、まず介護職員のIT習熟度の問題が挙げられる。次に介護サービスは自治体単位で運営されているにもかかわらず、これまでITサービスが各自治体をまきこめていなかったことが挙げられる。

この2点を解決するサービスを創出し、介護領域IT化の主役となる可能性のあるベンチャー企業が登場してきている。

ロジックが提供する「Care-wing(ケアウィング)」は、スマートフォンとICタグを活用することで、ヘルパーが容易に(IT習熟度を問わず)利用でき、介護サービス提供に関する記録・入力業務負担を改善する仕組みだ。介護記録は各介護利用者宅にのみ存在するICタグの読み込みでしか行えないため、時間・場所の改ざんは不可能だ。

そのため、同サービスへの利用者、自治体からの信頼は厚い。自治体からの信頼により介護記録の利用者押印が不要となったことで、介護記録がオンライン化され、月に1度の自治体への保険請求業務の省力化を実現している。

こうした現場感覚から生まれた高い価値を創造するサービスが業界の変化につながりそうだ。

SMBC 日興証券

第二公開引受部

IPO

アナリスト課

高橋 政治